

## 【声明】北朝鮮の「衛星」発射強行について

北朝鮮政府は、4月13日朝、国際社会の中止を求める声押し切って、「実用衛星」の発射を強行した。報道によれば、飛翔体は1分以上飛行し、洋上にばらばらに落下したとみられる。

我々は、この計画に対し、「核兵器開発問題を解決する外交努力が行われているさなかに、弾道ミサイル技術と同じ衛星ロケットの発射をおこなうことは、問題解決を困難にするばかりか、東アジアの緊張を高め、平和を脅威にさらすものでしかない」と、その中止を強く要求してきた。そしてこの声は、アジアと世界の多数の声となって広がっていた。

北朝鮮政府が、この声を見做してロケットを発射したことに、強い遺憾の意を表明するものである。

我々は、北朝鮮に対し、このような挑発的行動をやめ、2005年の6カ国協議の共同声明に立ち返り、6カ国協議へ復帰すべきことを、ここに改めて求めるものである。それこそが、北朝鮮を含むこの地域の平和と安全をたしかなものとする道である。

また、日本政府はこの間、「ミサイル発射」に伴う落下物に備えるなどとして、軍事優先の態勢を強化することに熱中し、緊張を高める態度に終始してきた。日本政府はこのような態度を改め、6カ国協議の一員として、問題の平和的解決のために、いまこそ憲法の平和原則にたった外交イニシアチブを発揮すべきである。我々はこのことも改めて強く要求するものである。

2012年4月14日 日本平和委員会